

0日目（共通）

外に出ることなく、家に引きこもっていた主人公。久々に同居人のニア（ヒロイン）が現れ、別れを告げられる。口論になる二人。主人公は売り言葉に買い言葉で Wood へ赴くことを宣言する。

1日目（共通）

ニアに覚悟を確かめられる主人公。不機嫌なまま Wood に赴くことを宣言する。しかし外に出た瞬間、体調を崩してしまう。気を失ってしまい、次に目を開けると Wood の医務室だった。そこにはニアと咲宮アヤカ、航空特化部隊時代の同期のケイがいた。案内をアヤカに任し、仮想訓練があるからと席を外すニアとケイ。

アヤカと共に行き先を全てを軽く回る。場所の説明とそこにいるキャラの説明を済ませる。

1日の終わりにニアに今日の感想を聞かれ、少しだけ安心される。

2日目（共通）

朝

久しぶりに朝を自宅以外で迎える。

昼

昨日会った人から快く歓迎され、昨日とはまた違った話をする。（そこにある機械の話であるとか、決行しようとしている作戦の話であるとか。Wood という組織が何をやろうとしているのかを明確に）

夜

ニアからそろそろ明日から仮想訓練をやってみない？と提案される。タウは一応その提案を受け入れるものの、なんだか気乗りしない様子。ニアは何やら安心した様子でタウを見守る。

3日目

朝

何やらアヤカは用事があるそうで、今日は一人で行動することに。しかしニアはその事を知らなかった様子。彼女は少し不審に思うものの、何か事情があるのだろうと無理やり納得する。そして、仮想訓練に向かうニアを見送る主人公。まだ戦うことに対する覚悟ができておらず、どうすればいいのか迷っている。

昼（分岐1）屋上を選択した場合

アヤカの過去に何があったのかは明確には描かない。Wood に入った動機が不純であるこ

と、自殺願望があることを教えられる。ここで主人公は悩みを持つ者が自分だけではないと知る。

昼(分岐2)仮想訓練所を選択した場合

タウ、ニア、ケイの三人で仮想訓練に挑み、レマを追い詰めることに成功する。タウは圧倒的な才能の差を見せつけ、それによってケイは不機嫌に。周囲の反応とは裏腹に、ケイは不満を募らせていく。

夜(分岐1)

ニアに仮想訓練にこなかった事をそれとなく指摘される。タウはアヤカと話していた事を教え、彼女がどこにいたのかを聞かれる。屋上にいたと話すと、彼女は悩みがある時にはいつもそこにいるのだという事を教えられる。ニアからアヤカの相談に乗ってくれてありがとうと言われる。どうやら最近忙しくて相談に乗ってあげられなかったらしい。嬉しくなつて、タウは明日から仮想訓練に参加する事を宣言する。

夜(分岐2)

今日一日アヤカの姿を誰も見ていなかったことが判明する。こんな時にと苛立つケイ。心配するニア。ただ呆然とするタウ。これには何か事情があるのかも知れないと考えるニアに対し、ケイは逃げたのだらうと一蹴する。これまでも逃げ出したメンバーは数多くいる。彼女もそのうちの一人なのだろうと。しかしニアは明日、少しでも彼女を探すべきだと言って聞かない。ニアはトウジに直談判し、彼は少しだけ彼女を搜索することを約束する。

4日目

朝(分岐1)

タウは自発的に朝イチで仮想訓練を行い、好成績を収める。しかし練習終わりに仲睦まじく話すケイとニアを見て、タウはケイに嫉妬する。2人と顔を合わせることが嫌になったため、3人での仮想訓練には参加しないことにする。

朝(分岐2)

自責の念に駆られアヤカが自殺したのが発覚する。自分に当てられていた遺書を読むケイ。そこにはアヤカがなぜ Wood に来たのか、それとアヤカがケイに抱く淡い恋心が記されていた。しかし、ケイはアヤカを軽蔑する。ニアに諭され一時は飲み込むものの、納得できない様子。ニアに逆ギレしたまま仮想訓練を行い、ケイは酷い成績をおさめる。一方タウは疎外感を感じ、一人で Wood をうろつく事にした。

昼（分岐 1）

ケイとニアの関係性をアヤカと共に探ろうとする話

昼（分岐 2）

アヤカの死を踏まえたもの（アヤカの父親の話。ヒューマン計画やトウジの過去を明らかにするのがメイン）

夜（分岐 1）

ニアへの不信感を拭いきれないタウ。ニアはいつもと同じように接してきているのに、全てがわざとらしく見えてしまう。ひょっとすると、とっくに嫌われているんじゃないだろうか。そんな疑念が彼の頭を支配する。ニアをケイに取られたくない。その一心でタウは明日、3人での仮想訓練に参加することを決意する。

夜（分岐 2）

アヤカの死を受け、悲しみに暮れるニア。どう声をかけていいかも分からずに、タウは一人自分の部屋に戻る。自分が死んだ時、ニアは同じように泣いてくれるのかと言う不安が頭を擡げる。また、自分の知らないニアの姿があることを悟る。

5 日目

朝（分岐 1）

眠れない夜を過ごしたタウ。睡眠不足ゆえに体調を崩してしまう。ニアから休んでおくよう忠告されるも、ケイが仮想訓練に参加する以上休むわけには行かず、虚勢を張って行くことに。

最悪のコンディションのタウはニアとケイの足を引っ張ってばかり。何度もレマに倒されては、最初から仮想訓練をやり直し続ける。最初は二人とも我慢していたが、半ば投げやりになっていくタウにケイは苛立ちが隠せない。もうやめときなよとメヤに諭され、仕方なく仮想訓練所を後にする。

朝（分岐 2）

アヤカの死を受けて、レマに更に真剣に向き合うことを決意したニア。時間を無駄にしないためにも朝イチで仮想訓練に行く。タウはニアとの距離を感じ、居心地が悪くなる。

昼（分岐 1）

気分は沈んでいるものの、部屋に戻るのも負けた気がして嫌だ。今はそっとしてほしいとアヤカに告げ、一人で Wood を回る。しかし、決戦前ということもあってかどこも忙しい様

子。ただ自分に気を遣っているのか、それを悟らせないように接してくれる。逆にそれが辛くて、心が落ち込んでくる。

昼（分岐 2A）

キャラクターたちがなぜ Wood に来たのかを明らかに。大した理由もなく Wood にきたタウは自分がなぜここにきたのか分からなくなってしまふ。

昼(分岐 2B)ケイとニアがいる場所を選択した場合

タウはニアとケイが二人で話しているのを目にする。気配を消して会話の内容を聞く事に。どうやらケイがニアに告白しているようだ。

夜（分岐 1）

今朝のこともあり、ニアに本当はどうしたかったのかを聞かれる。本当にタウは Wood に来たかったのか。自分があんなことを言ったせいでタウが Wood に来ざるを得なくなってしまったのではないかとニアはずっと思い悩んでいたのだ。返事に困るタウ。それを見てニアは助け舟を出す。明日の仮想訓練に来るか、来ないか。それでタウの意思を判断するといふ。タウは自分がどうしたいのかも決められないまま、ニアの部屋で寝落ちしてしまう。

夜(分岐 2A)

ニアに話しかけようとしても、疲れ切っているようで相手にしてもらえない。仕方なく、夜の Wood をうろつく。もちろん誰もおらず、入れる場所もない。しかし開発実験室のみ開いていて、恐る恐る中に入ってみる。そこにはトウジがおり、戦闘機の最終調整に入っていた。これは何かと問うタウに、トウジはいざという時のための予備だと答える。彼はヒューマン計画の全貌を話し、父の失敗や自らの失敗(ヒューマン計画)について話す。

夜(分岐 2B—①) 屋上を選択した場合

昼の事もあり、眠れないタウ。仕方なく屋上に向かう。そこにはケイがいて、気まずい時間を過ごす。ケイは以前からアヤカの好意に気づいていた事、アヤカの過去を彼女の口から聞いていた事を話す。また、彼女からの愛に耐えきれそうになかった事や、ニアではなくアヤカを好きになれていたのならみんな幸せになれたのかもしれないとも。

夜(分岐 2B—②)部屋に留まる事を選択した場合

昼の事もあり、眠れないタウ。如月ミクにチャットで相談する。彼女はまるで自分達の事を知っているかのように的確なアドバイスをしてくる。夜が明けるまで相談し、疲れて寝てしまふ。

6日目

朝（分岐 1）

ニアともう一度話したかったが、目覚めた時にはすでに彼女の姿はなかった。すぐに寝てしまったため、全然気持ちは固まり切っていない。どうすればいいか考えながら、部屋を出る。

朝(分岐 2A)

トウジの秘密を知ったタウ。Wood の設立が不純な動機から成されたものだと知って、自分がここでどう行動すれば良いのか迷う(結局は大義名分を得て戦う事から逃げているに過ぎない)

朝(分岐 2B—①)

タウはノックの音で目を覚ます。ドアを開けるとケイがいた。どうやら彼はニアと顔を合わせる事が気まずいらしく、仮想訓練を休むらしい。もう少しだけ話がしたいと言うケイを、タウは受け入れる。そこで二人は航特時代の話をする。タウとケイは仲直り？

朝(分岐 2B—②)はなし

昼（分岐 1A）～仮想訓練所を選択した場合～

タウが仮想訓練所に着く前から、ずっと二人は仮想訓練を行っていたようだった。二人の訓練が一区切りつくのを待って、二人に声をかける。ニアはタウが決めたことなら、と自分に言い聞かせているがどこか寂しそう。ケイはタウが来たことに驚きを隠せない様子。タウは自らも仮想訓練に参加すると宣言し、もう一度、3人での仮想訓練を試みる。

昼（分岐 1B）～仮想訓練所を選択しなかった場合～

昨日と違ってみんなの反応は冷たい。タウにかまけている暇はないようだ。アヤカと二人で話をする。自分は本当にここにいていいのか。ただ足を引っ張っているだけじゃないのか。そんな不安が頭をもたげる。

昼(分岐 2A)

Wood を回ってトウジに対する Wood の人々の思いを探っていく。尊敬している人や疑念を抱いている人など色々な思いがあるが、Wood の司令官としては皆評価している。

昼(分岐 2B—①)

タウ、ケイ、ニアの三人で仮想訓練を行う。初めて仮想訓練でレマを倒す事に成功する。そのお祝いと、明日の英気を養うためにパーティーをする事に。

昼(分岐 2B—②)

昨晚の事もあり、遅い時間に目覚めるタウ。仮想訓練所を覗くとケイとニアがいつものように仮想訓練を行なっている。自分も参加しようとしたが、辞める。自分がなぜニアを好きなのか、ニアがなぜ自分を好きなのかを考えてみたものの答えは出ない。

夜 (分岐 1A)

明日がレマとの決戦の日だとは分かっているが、現実感がまるでない。結局覚悟もできないまま、明日を迎える事に。

夜 (分岐 1B)

ニアはもう寝ており、彼に構ってくれる人は誰一人としていなかった。チャットで定期的に連絡していた相手（如月ミク）からも返事はなく、不貞腐れる。

夜(分岐 2A—①)ニアのいる場所を選択した場合

ニアがトウジに対してどう思っているかを聞く。アヤカの死を踏まえても、彼を全否定しないニア。トウジの秘密をニアに話しても、答えは変わらない。そんな人だから無謀にも思えるレマの殲滅を目標とする組織を作り上げる事が出来たのだという。彼がこれまでにやった事は許されることではないが、彼がこれからやろうとしている事は着いていくに値するとも。

夜(分岐 2A—②)部屋の中に留まる事を選択した場合

トウジへの疑念は都合良く膨らんでいき、レマと戦う事がよくない事なのではないかと考えはじめる。Wood の面々は戦時中の国民のようにマインドコントロールされているのではないかと。また戦争が終わったら元に戻って戦った事を責められてしまうのではないかと。

夜(分岐 2B—①)

Wood のメンバー全員でパーティーを行う。ただ、アヤカがいないという事実が彼らに重くのしかかる。トウジは何やら気まずい様子。明日の決戦に向けて、パーティー終了後も各々最終調整に入っていく。ケイやニアも眠れないようで、三人で話をする。

夜(分岐 2B—②)

ニアになぜ自分を好きでいてくれるのか聞いてみようとしたが、怖くて辞める。

7 日目

朝 (分岐 1A—①) ニアのいる場所を選択した場合

ニアとサシで会話する。ニアが本当はタウへの恋愛感情や、自分にどうして欲しかったのか

を知る（過去のことも織り交ぜて）。ラブラブムードで仮想訓練所に向かう。

朝（分岐 1A―②）ケイのいる場所（仮想訓練所）を選択する場合

ケイと久々にサシで会話する。ケイがニアに抱く恋愛感情や、タウへの嫉妬心を知る（過去のことも織り交ぜて）。ギクシャクしたまま二人は仮想訓練所に向かう。

朝（分岐 1B―①）格納庫を選択した場合

ニアは格納庫にきたタウを迎え入れるが、ケイは不機嫌なまま。二人で話しているタウとニアを見て、ケイのイライラは最高潮に。二人にブチギレる。そしてケイは一人でどこかに行く。ニアはお世話になった人たちに挨拶をしに行くらしい。タウは一人取り残される。

朝（分岐 1B―②）帰ることを選択した場合

昨日と同じく、忙しいのか誰も声をかけてくれない。ニアに会うことも叶わずに、タウは帰路に着く。

朝(分岐 2A―①)

トウジはいつもと変わらぬ様子だが、昨日の事を踏まえて少しだけ見る目が変わる。タウはどうせ死ぬならと戦う事にする。

朝(分岐 2A―②)

タウはニアを Wood から救い出そうと疑念をぶちまける。困惑する Wood の面々、悲しむトウジ。ニアがどうしても一緒に家に帰ってくれない事を悟ると、泣きながら Wood を飛び出す。

朝(分岐 2B―①)

三人ともあまり眠れなかった様子。しかし今からだとあまり眠れなさそう。三人で Wood をうろつき、最後の挨拶をする事に。そこで生きる上で人間が背負うべき罪を全てアイデアに押し付けてしまった事を謝罪される。また、今日の戦いを応援される。

朝(分岐 2B―②)

世界がもうすぐ終わるというのに、タウはニアの事ばかり考えている。人々が慌ただしく蠢く Wood の中を、タウはただぼんやりと歩いている。ある種の現実逃避。向き合うべき現実から巧妙に目を逸らしている。

昼（分岐 1A―①）

ニアとタウと一緒に格納庫にきたのを見て、ケイはめちゃくちゃ不機嫌に。周囲がなんとか

その場を収めようとするが、アヤカが声をかける間も無くケイは戦闘機に乗り込む。殺伐とした空気でレマとの戦いに挑む。

単独行動をするケイ。トウジからも叱責を受けるが意に介さず、一人でレマを倒そうとする。ニアからも注意されるが、どうせ俺のことはどうでもいいんだろとへラる。ヤケになって特攻しようとするも、怖気付いてしまう。コントロールを失ってしまうケイをニアは助け、死んでしまう。残されたタウとケイは、口論をしている間にそれぞれ死んでしまう。

昼（分岐 1A―②）

ケイはレマの強攻撃からニアを守る。未だニアを好きな事実は変わらないと言って死ぬ。張り合うようにタウはニアを守って死んでしまう。取り残されたニアは自責の念に駆られるも為すべき事を見失わず覚悟を決め、覚醒を果たす。しかし撃墜され、死亡する。

昼（分岐 1B―①）

ケイはギリギリまで仮想訓練をしていたらしい。当てつけのようにそれをアピールするケイ。一人取り残され、居心地が悪いタウ。3人の間に陰悪なムードが流れるが、そのままレマとの戦いに臨む。

ケイがまずやられ、タウがやられかける。ニアは覚醒し善戦するも、命令を無視しタウを庇って死んでしまう。一人取り残されたタウはどうすることもできないと諦め、なす術もなく死んでいく。そして、世界は終わる。

昼（分岐 1B―②）

自分は戦おうとした。それなのに、みんな自分のことを認めてくれなかった。そう自分に言い訳をするタウ。今は世界のことより、ニアがケイのことをどう思っているか、それだけが重要だった。ニアのことを思いながら、意識がなくなるまで思索に耽る。

昼(分岐 2A―①)

Woodの面々には激励され、トウジには感謝され少しだけ嬉しくなるタウ。戦闘機に乗り込み飛び立つ。しかし、レマを見て怖気付いてしまう。ニアやケイ、トウジから落ち着くように言われるも恐怖で戦闘機を上手く動かせない。ついうっかり手を滑らせてしまいピンチに。ケイはタウを庇って死んでしまう。ますます恐怖に震えるタウを見て、トウジは作戦を立て直そうと言って飛行船に行くように進言する。しかし、飛行船にはたどり着く事が出来ず、二人とも死んでしまう。

昼(分岐 2A―②)

帰宅したタウ。戦争中、戦争後のトラウマが彼の頭を駆け巡る。あれだけ戦う事を称賛していたみんなが手のひらを返してきた事。また、殺してきた人のことを思って。ニアはそれで平気なのだろうか。ケイは？過去の記憶に囚われ、苦しみながら終末を迎える。

昼(分岐 2B—①)

三人は完全に打ち解け、戦いに臨む。戦いの途中、ケイはタウを庇って死んでしまう。タウはレマに復讐するために覚醒しようとするが不発。覚醒する事でヨリシロ化していくタウを助けるためにニアは飛行船に連れて行こうとする。しかし、その道中でニアはレマに撃墜されてしまう。タウも墜落し、ヨリシロと化していく自らの体を眺めながら意識が遠のいていく。

昼(分岐 2B—②)

一応は戦う事を選ぶものの、結局何がしたいのかわからないタウ。誰に何を話しかけられても上の空。命令もろくに聞かず、攻撃も当てる事ができず、足を引っ張ってばかり。作戦は瓦解する。彼らは順に死んでいき、物語は終わる。

最終エピソード(全ての分岐をクリアした後にこちらが流れます。)

0 日目

外に出ることなく、家に引きこもっていたタウ。久々に同居人のニア（ヒロイン）が現れ、別れを告げられる。口論になる二人。主人公は売り言葉に買い言葉で Wood へ赴くことを宣言する。

1 日目

ニアに覚悟を確かめられるタウ。不機嫌なまま Wood に赴くことを宣言する。しかし外に出た瞬間、体調を崩してしまう。気を失ってしまい、次に目を開けると Wood の医務室だった。そこにはニアと咲宮アヤカ、航空特化部隊時代の同期のケイがいた。案内をアヤカに任し、仮想訓練があるからと席を外そうとするニア。それを引き止めるタウ。仕方なくニアは仮想訓練を休み、タウと二人で Wood を回ることになった。ケイは一人で仮想訓練をすることに。

2 日目

タウはニアに今日も一緒に Wood を回りたいと言うが、流石に今日は仮想訓練をしよう。だったら、とタウも仮想訓練をすることに。3人で仮想訓練を行い、初めてレマを倒す事に成功する。メヤはお祝いに小さなパーティを開く事を提案する。しかしケイは機嫌が悪い様子。足早に帰ってしまう。

3 日目

ケイはこの日、仮想訓練に参加しなかった。不審に思うニア。体調でも崩したのかとケイの部屋を訪れる。ケイはニアが来たとわかると、すごい剣幕で追い返した。仕方なく二人で仮想訓練を行う。またしてもレマを追い詰めることに成功する。浮き足立つメヤに対し、苦い

顔をするトウジ。

4 日目

タウは慣れない仮想訓練を2日間続けたため、体調を崩してしまう。ニアはタウが心配で、看病するために仮想訓練を休む。

一方、ケイは昨日のサボりを取り返すために仮想訓練をする。だが、相変わらずボロ負けしてしまう。ふと覗きにきたトウジに話したいことがあると言われケイは司令室に。

人が居なくなった司令室。部屋にはケイとトウジ二人しかいない。そこで突然、ケイはトウジに自分に似ていると言われる。タウに対してコンプレックスを抱いていることも指摘され、動揺を隠せないケイ。続いてトウジはヒデヒトという男に同じようにコンプレックスを抱いていた事をケイに明かす。そして、如月レナという愛した女性もヒデヒトに取られた事も話す。ヒデヒトより劣った自分がケイを作ったから、ケイはこんな風になってしまったという事も。許してくれと謝罪するトウジ。ケイは涙ながらにこれを許す。トウジと別れ、ケイは悪いのはヒデヒトとタウであると憎しみに満ちた表情を浮かべながら歩く。

しかしその日の夜、咲宮アヤカがトウジを殺害。翌日これが発覚する。

5 日目

三島トウジの死により、wood 全体に混乱が走る。その混乱を収めるべくカイトが wood の司令官を務める事に。彼はアヤカの処刑を執行し、トウジの遺志を継ぐ形で作戦決行の決意を固める。しかし、終末を止めると息巻き頑張るケイに対し、タウとニアは消極的。ケイは更に2人に不満を募らせていく。タウとニアそこでようやく二人は久々にまともに話す。タウはようやくニアの真意(本当はタウを戦わせたくなかった)を知り、2人で Noah に向かう事に。

6 日目

wood の戦闘機を奪い、Noah の飛行船に向かう2人。それに気づいたケイは2人を捕まえるか殺そうとする。しかし、彼はニアにあえなく撃退される。そしてタウとニアは飛行船に到着。Noah の面々に出会う。タウは如月ミクから Noah の軽い説明を聞いて、これから世界がどうなるのかを聞く。しかし、ミクが喋ろうとするのを遮るニア(タウに真実を知らせたくなかったため)。適当に理由をつけてタウを連れ出す。

7 日目

Wood に戻ろうとするニアを、タウは引き止める。「世界がどうなってもいいから、少しでも二人一緒にいよう」、みたいに。ニアはその言葉に喜び、戻る事をやめる。二人は肩を寄せ合って、思い出や愛を語り合う。

一方、ケイは一人で半ば投げやりにレマに特攻し、ダメージを与える間も無く死亡する。そして世界は終わる。